

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|--------------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 2372600979 | | |
| 法人名 | 有限会社アール・ザ・エイチ | | |
| 事業所名 | グループホーム虹の家 | | |
| 所在地 | 愛知県豊川市牛久保町天王下6番地の1 | | |
| 自己評価作成日 | 平成29年7月5日 | 評価結果市町村受理日 | 平成30年1月25日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhou_detail_2017_022_kani=true&UgyosyoCd=2372600979-00&PrefCd=23&VersionCd=022 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|----------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人あい福祉アセスメント | | |
| 所在地 | 愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえでビル 2階 | | |
| 訪問調査日 | 平成29年10月16日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

虹の家では、個人の生活スペースを尊重した生活ケアの取り組みとして生活の基本となる食事に力を入れています。時には庭の畑で取れた季節野菜も加わり、利用者様の希望メニューを取り入れながら三食手作りでバランスの良い食事を提供しております。また、利用者様の健康管理にも気を付けており、家人に毎月近況報告の手紙を出しています。病院受診もスタッフが同行しています。レクリエーションの時間は意欲的に活動できるように、個人に合った運動・脳トレを支援しています。季節感を出す為の行事、室内装飾などもスタッフと共に製作しています。定期的にボランティアの方の訪問があり、地域の方との交流機会も設けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は周りに田畑の広がる静かな住宅地の中にあり、近くには小学校や保育園、喫茶店やコンビニなどがある。創設者は事業所設立時に、近隣の住宅を訪問し、施設の役割や目的、特長などを説明し理解を求めた上で開設した経緯があり、住民との交流は深く12年の歴史が刻まれている。「入居者一人ひとりの個性や思いを大切に」とする理念を職員皆が共有し、入居者のペースや能力に合わせた支援に取り組んでいる。四季折々の恵まれた自然環境の中で、散歩や買い物、地域での催し物や事業所内の催し物に参加しながら人々とふれあい、地域に見守られながら入居者は日々を過ごしている。職員と共に献立を考え、菜園で収穫した野菜を取り入れたり、チラシを見て買い物したりして、三食手作りの食が提供されている。入居者は明るく清潔感のある居間で、絵をかいたりテレビや新聞、雑誌などを見たり、楽しく会話をしながらゆったり過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 常に理念を意識しながら利用者様の個性を尊重したケアを行っている。ケアの情報交換は、カンファレンス等で話し合い取り組んでいる。 | 理念は誰もが見て確認できるように玄関や施設内に掲示している。月1度のカンファレンスで理念を意識し、「利用者が中心となる適切なケア」を目標に話し合いながら、ケアに取り組んでいる。入職者にも、理念について説明を行っている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している | 敬老会、地区運動会、地区文化祭等に積極的に出かけ、地域との交流を持ちながら生活している。定期的に、ハンドケアセラピー、話し相手、レクリエーション等のボランティアの訪問を受けている。体験学習や実習生の受け入れも行っている。 | 町内会に加入しており、地域の行事や文化祭、近隣の学校行事等には積極的に参加している。ホーム主催の「地域ふれあいの会」はチラシを配布したりして年2回開催し、地域の多くの方が参加し恒例の催しとなっている。日常の散歩や買い物などでもふれあいを重ね交流を深めている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 施設のイベントに地域の人々の参加を呼び掛けたり、散歩、買い物、地域の催しものに出かけ、言葉を交わしている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 外出行事、季節行事や防災訓練等の活動状況や利用者様の様子を報告している。課題については話し合い意見をもらってスタッフ全員で取り組んでいる。 | 家族や民生委員、市議会議員、地域包括職員の参加を得て年6回開催されている。災害対策やサービス向上など活発な話し合いがされている。災害時の安否確認の目印として事業所の外に黄色いハンカチを掲げるなどの提案もあり、訓練で実施もしている。議事録は家族へ送付し会議内容を報告している。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | ケアサービスの取り組みについては、運営推進会議で地域包括支援センターの職員に報告できている。市で実施する事業者集団講習会も毎回出席している。 | 介護保険申請代行や連絡協議会へ参加し、市との関わりを深めている。また、市の情報システム、「電子連絡システム(ホイップ)」にも参加し市が発信する情報の入手や事業所間との情報共有など、より密接な協力体制や連携などが期待される。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 家人との相談の上、便汚染をする方に夜間、介護服を着用して頂いている。ベッドに横になるとパンツ内に手を入れ、色々な場所に便を付けるため。玄関の施錠は不穏時に危険防止の為に、一時的(早朝や夕方以降)にする時もあった。 | 身体拘束をしないケアの実践に向けて、研修会に参加し、内部研修で周知し共有に努めている。個々の事例についてはカンファレンスで話し合い、家族の了解を得て対応をしている。身体のみならず、スピーチロック等言葉や態度にも配慮をし、拘束感のないケアに努めている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 虐待はない。入浴時、着替え等、日々のケアの中でスタッフ同士で確認をしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 対象者がいない為、話し合いをしていないが、今後学ぶ機会を設け理解を深めていきたい。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約書の説明に納得された事を確認した上で手続きを進めている。利用者様が安心して生活が出来るように家族から情報を得て話し合っている。改定の場合は書面にて確認を頂いている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 利用者様、家族からの意見・要望はいつでも受け入れられる状況にあり、サービスの質の向上につながるよう取り組んでいる。 | 入居者からは日々の関わりの中から思いや意向を把握し連絡ノートに記載して話し合っている。家族からは面会や行事、運営推進会議等で意見や要望を聞きその都度検討し運営に活かしている。「グループホーム虹の家かわら版」で事業所の様子や行事予定を知らせ家族の安心を得ている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 気づきの内容により、個別又はカンファレンス時に意見や提案に関する事を話し合い、サービス向上に反映している。 | 日常業務時やカンファレンス等で職員の意見や提案、要望を聞き話し合ったり、個人的に話し合う機会を作ったりしている。年2回は自己評価を実施し、個人面談の機会もある。パート職員も含め話し合いの機会を設け、意見の言いやすい環境を整えている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員の意見や気付きを検討して、いつでも職員が働きやすい環境で仕事ができる様に努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 個人に合わせての勤務の取り組みや職員間の協力で上達出来るように進めている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 連絡協議会に出席した時に他の事業所の方と情報交換をしたり、研修会に他のグループホームの職員と話をする機会を設け質の向上に取り組んでいる。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 利用者様の不安に対して時間の許す限り話を傾聴し、情報収集した内容はスタッフ全員で共有してサービスの向上に努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 契約時、サービス担当者会議にて家族の要望等を取り入れ、サービスを計画に取り入れている。サービス内容に関しての状況は、来所時や状況報告の手紙で知らせている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 利用者様、家族からの要望は実際の利用者様の状況に対してスタッフ全員で個人の情報を連絡メモに記入し、一番適した方法でサービスに努めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 掃除・洗濯物干し・たたみ、食事の手伝い等と共にやっている。お互いが協力しながら生活できる様に考えを主張しあったり、話し合ったりしている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 利用者様、家族の話を良く傾聴し、どちらにも無理のないような関係が保たれるように支援している。気付きの点がある時は連絡をとり話し合いの中で共有する事に心がけている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 友人、知人の方にも行事に参加して頂いたり、来所時には居室にてゆっくり話をしている。地域の行事や図書館、買物等にも出掛けたりしている。 | 入居前の生活歴を活かしながら、関係継続の支援に努めている。図書館や行き付けの美容院、公民館で上映する映画を見に行くなどの支援を行っている。墓参りや、盆、正月は自宅で過ごしたり、家族と墓参りや旅行に行く方もいる。水彩画などの趣味や、菜園や雑巾縫いなどの家事仕事などを活かせる環境を整えている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | スタッフが調整役となり、おやつやの時間やレク、散歩時などお互いが交流できる様に支援している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | サービスが終了しても相談等があれば今まで通りと同じように対応している。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 本人をとりまく人々から情報を得て、本人の生活意欲向上につながるように計画に取り入れ対応している。外出行事など本人に合わせて行動している。 | 日々の関わりの中で思いや意向の把握に努めている。意思表示の少ない方からは、入居前の生活歴や家族、知人等からも情報を得るようにしている。職員間で随時話し合い、日々の生活や外出行事など本人の生活意欲につながるような計画を立て支援に取り組んでいる。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 家族や今までのサービス利用関係者より情報を得た中で、スタッフ全員が日々の暮らしの中で関わり合いを持ちながら把握している。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 日常生活の利用者様同士の会話や、連絡ノート、記録により、スタッフ全員が共有して把握している。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 本人、家族、担当スタッフ、ケアマネの参加で担当者会議を開催し、意見を出し合って現状に合った無理のない計画を立てて見直し、モニタリングも行っている。 | 担当制でケアをしているが、毎月のカンファレンスで、入居者の変化について話し合い、職員全員が情報を共有しケアが出来るようにしている。3ヶ月に1度モニタリングを実施し、本人に分かりやすいプラン作成を心がけている。モニタリングシートも課題や変化、問題点が分かりやすい移行シートタイプを使用し、家族からの聞き取りや職員からの情報を基に評価し、現状に即した介護計画を作成している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個別にファイルがあり、バイタル、食事量、入浴、排泄、面会、外出記録、特記事項等にてスタッフが共有して具体的に書いている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 利用者様、家族のニーズに対応して現状に合った対応をしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域ボランティアの訪問を受け、リラックスした楽しい時間を過ごしている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入所時の説明、確認をする事で納得の得られた病院に受診している。入所前のかかりつけ医に受診される方が多い。家族の都合により、スタッフが同行している方もいる。 | 入居時にかかりつけ医、提携医の希望を聞き希望に沿った支援をしている。かかりつけ医の受診は家族の協力を得ているが、職員が同行支援することも多い。内科・歯科の提携医による医療体制が整えられている。事業所では、電子連絡システムの活用を始める事で医師との連携や迅速な対応に繋がられるようにしていく方向にある。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 日常生活の中で体調変化に気を付けているので早期発見が来ている。状態によりその日に受診対応して、申し送りによりスタッフ全員が共有している。受診が難しい時は往診に来て頂いている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり | 入退院時に付き添ったスタッフにより医師からの情報を得ており、記録よりその時点の連絡を全スタッフで共有できる。病院より連絡が入った時は出掛けて説明を受けている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入所時の説明にて確認を取っている。急な体調変化等に対しては、家族と話し合い、最良の方法で取り組んでいる。看取りについては訪問医師、家族との意向に寄り添って取り組んでいる。 | 重度化や終末期に向けた方針については、入居時に家族に説明し確認を取り、看取り支援を行っている。医師や看護師と24時間の連携が可能である。看取り支援となった場合には、医師と家族が直接話し合う事で安心した終末期支援が行えるようにしている。管理者は、事業所として出来る事や方針等の手順書を作成したり、職員のメンタル面についても配慮しながら取り組んでいる。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 施設内での研修を行っている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 災害訓練を実施している。(火災、地震、水害)避難ルートはフロア、玄関に掲示してある。連絡協議会での合同災害訓練に参加している。 | 昼間を想定した訓練を年2回実施し、通報訓練も行っている。地震、災害、水害の避難場所やルート確保や入居者の防災用ナップザック、頭巾が用意されている。食料や水などを含めた備蓄品とリストが確保されている。情報確保はできている。災害時の近隣住民の協力のあり方も具体化するなど、地域との協力体制作りに努力をしている。 | 消防署立ち合いで夜間の訓練を実施し、専門的な評価や指導を受け、どの職員も災害時における危機管理が出来るようにしていくことを期待したい。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 利用者様の個人にあった声掛けをするように配慮している。他利用者様のいる場所でプライバシーに関する話はしないようにしている。 | プライバシーの確保について、「気をつける事は何か？」を常に話し合いケアに繋げるようにしている。馴れ合いが過剰とならない様に言葉のかけ方や、気分を害さない対応に注意し、その人の誇りやプライバシーを損ねない支援に努めている。脱衣場内にもカーテンを設置しプライバシー配慮に工夫している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 自己主張の出来ない人は、居室等でゆっくり話をして思っている事や希望している事が決められるように心がけている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 一日の生活の流れはあるが、利用者様の体調、気持ちを尊重し、柔軟に対応する中で、個人のペースにあった生活を支援している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 化粧品、衣類など利用者様個人の購入希望にスタッフが対応している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 個人の摂取状態に合わせてながら、(量や形態)食べやすいように提供している。声掛けにてテーブル拭き、手の消毒スプレー等の作業への参加を促している。 | 毎日の食事は入居者の好みや量、形状などを配慮して三食手作りをしている。買い物に行ったり、菜園で収穫した野菜を職員と一緒に下ごしらえをしたりして食べる楽しみが持てるようにしている。職員も同じテーブルを囲み見守りと楽しい雰囲気作りに努めている。誕生日にケーキや赤飯などでお祝いをしたり、日曜日のおやつ作りや外食行事も楽しみの一つとなっている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 毎月体重測定を実施、毎食食事量チェック、レク参加で活動量を把握している。水分量が分かるように個人のボトルを用意している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後の口腔ケアをスタッフの声掛けで全利用者様施行している。夜勤帯で義歯を洗浄剤に浸している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄チェックボードを利用し、食前又は食後はトイレ誘導をしてパターンを把握し、失禁減少に努めている。時間に合わせトイレ誘導をしている。 | 表情やしぐさ、排泄パターン等に留意し、排泄チェックボードを活用しながらプライバシーに配慮して、一人ひとりに寄り添った漏れのない言葉かけや誘導をしている。座位で排泄できるように支援し、失禁のないケアが入居者の自信と自立につながるような支援に努めている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 水分、野菜、運動、牛乳など取り入れている。医師から指示の下剤使用者あり。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 一応曜日に分けて決めているが、清潔保持の為、夏場は殆ど全員が毎日入浴している。利用者様により個々の援助を行っている。 | 清潔保持のため週3回の入浴で支援を実施している。希望があれば毎日でも入浴支援は可能である。入浴を好まない方でも言葉かけの工夫等により自然に入浴できるように支援をしている。季節の菖蒲湯やゆず湯、入浴剤等を使用して変化をもたせたり、浴槽内の清潔にも留意している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 利用者様個人の意志で自由に過ごせるように支援している。利用者様の体調に合わせてスタッフが促す場合もある。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 利用者様の担当者が服薬セットを任されている。受信時の記録にて症状を全スタッフが把握し観察した内容を記事に残している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 得意分野で一人一人の持っている力を発揮してもらえるように促し、実施している。施行後は必ず感謝の言葉をかけている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 習慣として散歩に行っている。食事の買い物、図書館、催し物、行事等でも外出の機会を設けている。利用者様個人の買い物でスタッフ同行での外出もある。 | 散歩が適切な季節は、周辺の田や畑の四季の変化を楽しみながら、毎日の散歩が日課となっている。また庭に出て、洗濯物を干したり、畑仕事や草取りを行い外気に触れることを大事にしている。喫茶店や花見、図書館、日用品を買いに行くなど楽しみながら外に出る機会を多くする努力をしている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 必要物品は預り金にて購入している。スタッフと同行しての個人の買い物も家族の依頼により預り金にて購入している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 年賀状、暑中見舞い、その他の手紙もスタッフ見守りで書き、郵送している。家人より電話拒否のある方がいるため、用事がある人は用件をスタッフが伝えている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 玄関より共有空間はバリアフリーとなっている。家庭の延長の雰囲気大切に個々がリラックスして過ごせるように心がけている。 | 創設者の思いが込められた間取りは、和室、食堂、居間、居室入り口のある廊下がワンフロアとなっており、入居者の様子が一目で見渡せるようになっている。落ち着いた色彩の中、楽しげな外出時の写真や皆で作った季節の飾り物などが飾られている。明るく清潔感のある居間で入居者はテレビや新聞を見たり、会話を楽しんだりして自由な時間をゆったり過ごしている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ソファーに座る場所が自然に決まっており、気の合う者同士、楽しそうに会話されている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室は今までで自宅で使用していた物を持ち込んで頂く様をお願いしており、使い勝手の良いように入居時、家人と自由に配置している。 | 自宅で使用していた馴染みの物を持参している。部屋の配置換えは職員と話し合いで行っている。居室の掃除は職員と一緒にいき、清潔感、居心地良く過ごせる様に支援している。水彩画の趣味を活かし、作品が飾られるなど好みの部屋作りとなっている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 自立した生活ができるように、扉にトイレ、風呂等貼っている。安全に歩行、シルバーカー、車椅子移動もでき、スタッフが一目で見れるように配慮されている。 | | |